へ13
3702
17

門へ13
號3702
巻17

鬼も十八山茶も出花と世の俚語ゆ言ふなるべ草双紙も
又是ゆ齋く十月ぞかゝも作者の腹ゆ出せ〜種を産出せ
初編い更ゆ赤子ゆ〜二編と育ち三編と智恵づ紀十六
十七編ゆ到るべ自と脚色ゆ花香もあり〜味ゑる出る
ものゆ〜木傳既ゆ今稔いそゆ所謂鬼も十八編の盛りの
場ゆ及べとも素より山茶の者古〜を前人ゆ返せ〜條ある由へ
色香も失せ〜薄俤も又一帙口茶〜と時の出花とせる支あり〜

慶應第四戊辰孟春　爲永春水記

新織
綾次郎
女兒
鈴子
隼人の妻
正女

宇都宮家の
剣学者
旗山隼人

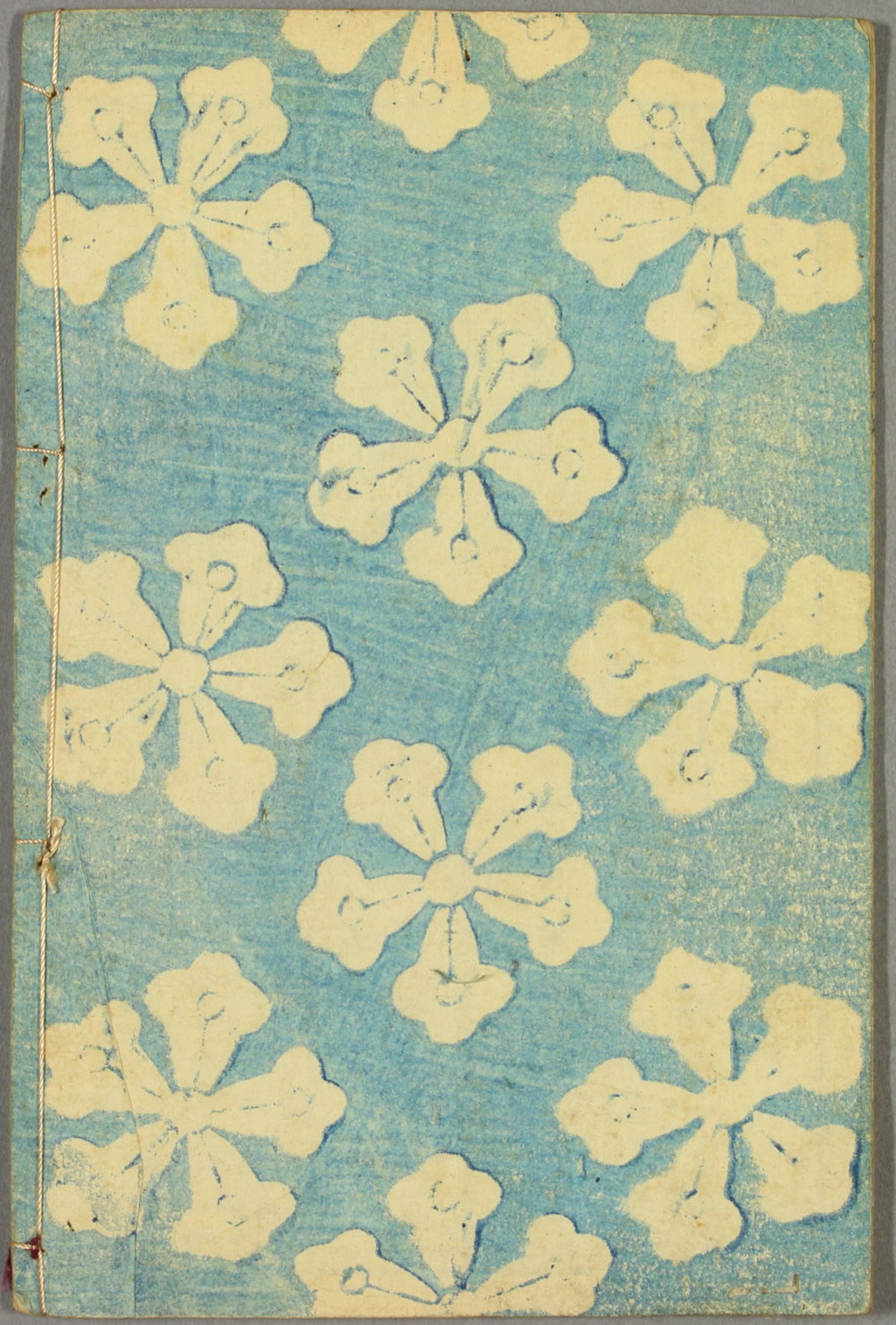
十七篇のつゞき

政川
永英
正

北陸道
軍学
兵法

本家
實母散
中橋酒傳馬　日東堂孝制製

鼠祠通夜譚　四編八編出板仕り　柳亭種彦作　梅蝶樓國貞画

厚化粧萬年嶋田　初篇辰春出板　遠々出板　萬永春水作　梅蝶樓國貞画

這ハ世ハ普く沙汰せらるゝ姐己阿百ハ傳ハ一と悪ハ和尚奥の惡霊
黄繰芦田の家ハ九做人とて義ハ忠臣孝女ハ一と渠ハ義手ハ苦
あゝとする表まゝて花ハうれ行く宜く理のはたらき草双紙ゝ